

# 平成27年度 学校評価項目

大津市立仰木の里東小学校

【大津市6つのキーワード】 1 学び合い（協同的な学び） 2 道徳教育の充実 3 体力づくり 4 指導改善（組織的・計画的） 5 育ちと学びを支える連携 6 組織的体制の充実

【学校教育目標】 自ら学び、心豊かでたくましい子どもの育成

【めざす子ども像】 [み] 自ら学ぶ子 [や] やさしく思いやる子 [げ] 元気な子

【めざす学校像】 ◎楽しい学校（わかる・できる喜び） ◎子どもが輝く学校（認め、高め合い、チャレンジする子ども） ◎地域に開かれた学校（信頼と特色）

【本年度の重点目標】 共に学び、心豊かに関わっていける子どもの育成に努める  
（里東のこだわり…4つの実践）

実践1：豊かな人間性を育む「心の教育」の推進

実践2：学び合う喜びが実感できる「協同的な学び」の推進

実践3：「保護者・地域」と共に成長する学校づくり

実践4：「健康と安全」を守り、育てる取り組み

【評価基準】 3：よくできている、2：おおよそできている、1：あまりできていない、0：まったくできなかった

大項目	中項目	小項目	自己評価（全教員による評価と平均値）		学校関係者評価	今後の改善に向けて	
			小項目平均	中項目評価	意見・提言等		
豊かな人間性を育む教育の推進	読書活動	全校朝読書を中心とした、心を豊かにする読書活動の推進に努めているか	2.4	2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読者が子どもたちの習慣として定着したように思われる。8時20分を過ぎると全校児童が教室内で読書をしている様子が見られる。・学校司書やボランティアの方に来ていただいて、図書室の整備や季節ごとの本の紹介など読書環境が向上している。・「志賀おはなしの会」や「ぐりとぐら」などの地域の方による読み聞かせが定期的の実施できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校を卒業した現在の中学校1年生は朝読書が定着しておらず、落ちつかない状況がある。中学校では朝読書を継続していくので、来年度入学予定の新1年生には定着した朝読書を期待している。・子どもがする読み聞かせの実施も検討いただきたい。・「読む」と同様に「聞く」耳も大切にしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は朝読書タイムが外国語活動の関係でなくなるが、短時間でも全校一斉の読書タイムは確保したい。・図書室が狭く、子どもたちが十分に読書できる場を考えなければならないので、拡張を検討したい。</li> </ul>
		読書習慣が定着するように読書指導の工夫改善に努めているか	2				
		読書環境の整備や地域人材等の活用を努めているか	2.5				
	道徳教育の充実	生命を尊重する心や人権尊重などの道徳的実践力を育てる活動の実施に努めているか	2	2.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開はどのクラスも行っている。年間指導計画も整備されている。毎月、何の教材を使いどんな授業をしたか、チェック用紙に書いている教師もいるが、組織的な資料の保存や授業交流までには至っていない。・道徳の時間を使い、クラス内で気になっていることや身につけてほしい道徳心について考えさせている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命尊重、人権尊重などの道徳的実践力の基本は各家庭のしつけであると感ずる。・保護者への授業公開は、学校の規律が乱れない程度に自由な参観が望ましい。教師も気にしないで日常の授業を公開するように。・中学校では人権侵害問題がライン上で発生しており日常的にも「死ぬ」「殺すぞ」という発言が多発している。毎日の生活の中での指導が大切ではないかと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的に資料の保存や授業交流のしくみを作っていくたい。・人権や生命尊重については、学校生活全体の中で教師の強い思いを示し、家庭と連携して取り組んでいかなければならない。</li> </ul>
		道徳教育推進教員を中心として、道徳の授業研究や資料の開発・整備・交流を行っているか	1.8				
		保護者等への道徳の授業公開を実施しているか	2.4				
	特別支援教育の充実	個別指導計画の作成が適切になされているか	2.3	2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーディネーターを中心に、2名の特別支援教育支援員の積極的な活用を図りながら、児童の課題を把握し適切な支援ができる体制ができている。・講師招聘による研修や巡回相談員による授業参観と懇談会を設定し、指導に生かしている。親の承諾をしっかりと取り里東小としての個別の支援計画が確立してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な支援が必要な子どもに対して適切な支援ができるよう保護者へアプローチし理解してもらってほしい。・特別に支援が必要な子どもを見逃していないか、気をつけていただきたい。・教師がご苦労をすべて抱え込まないようにして持続することが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特性の強い子と毎日に関わることで支援員や学級担任の精神的な負担も大きいので、担任外教師が密に関わりながら、支援員や担任が気持ちよく支援できる体制を作っていくたい。・年度末には保護者と振り返りの面談を設け、次年度にしっかりと引き継げるよう引き続き取り組んでいきたい。</li> </ul>
		組織的・計画的な特別支援教育体制が確立されているか	2.5				
		関係機関と連携した相談体制の充実が図られているか	2.2				
「学び合う喜び」を実感	協同的な学び	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践に努めているか	2.2	2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室の座席配置が全クラスコの字型に統一され、教師、子どもの中に「学び合い」学習が浸透しつつある。まだまだ、課題はあるものの、少しずつではあるが、授業の中に子ども同士の関わりが増え、落ち着いたクラスが増えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主性、協調性が備わる試みは持続が大切である。・支持的風土が育っていない状況では「学び合い」は難しい。中学校でも「学び合い」を進めており、新一年生のさらなる推進を図るとともに学習意欲に期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も外部講師を招聘して「学び合い」の研究をすすめ、学力テストや子どもアンケートによる調査など数値的な実績も積み上げていきたい。</li> </ul>
		協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めているか	2.1				
		学び合いを追求する授業研究や研修会を計画的に実施しているか	2.5				
	体験活動	地域素材や人材の活用・外部講師の招聘などによる体験活動のカリキュラム化が行われているか	2.2	2.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習だけでなく、いろいろな教科で、体験活動を多く取り入れ、内容のあるものにできた。・多くの学年が、コーディネーターの力を借りながら、ゲストティーチャー（講師）や外部人材を活用して学習を進めることができた。また、現地学習や本物にふれる学習も大事にしてきた。・参観等で発表会を行う学年もあった。・体験活動のために購入できるものは学年に声をかけて予算を最大限に使って購入できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の存在や命の大切さを他人の体験から学ぶ心の育みは必要である。・中学校でも「地域の学校」を目指しており地域を親しく思えるような体験活動になるとありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域コーディネーターと学校担当者がさらに連携して学級担任とつなげ、形だけでなく中身が充実する授業を構築し、学級担任の負担を減らす努力をしたい。</li> </ul>
		活動後の発表会等を実施するなどを通して学習のまとめができていくか	2.1				

「推進」	指導改善（組織的・計画的）	基礎学力の定着を目指した指導体制・指導方法の工夫改善に努めているか	2.2	2.1	・校内研究では全教師が授業公開をし、授業研究などを通して研究テーマに迫る方法をとることで、授業力の向上を図っている。・少人数指導は子どもたちの習熟度に合わせたプリントを複数枚用意し、得手不得手に合わせた学習ができるよう工夫している。・ICT機器の導入により、掲示物の作成など効果的な指導に活かせるようになってきた。	・「学び合い」を推進されていることそのものが指導改善に取り組みられていることだと思う。全校あげての取り組みにしてほしい。・子どもたちは先生に3公3現の原則に立った目で受け入れてもらっているのかを、鋭く意識していることを忘れていただきたい。	・若手教員がベテラン教師から学ぶしくみや機会をつくってほしい。・引き続き、放課後バックアップ事業などの取り組みにより基礎学力の向上に努めたい。・ICT機器の計画的な購入に努めたい。
		教職員の指導力及び3公・3現の2原則に立った組織的な教育力の向上を図っているか	2				
		ICT活用による校務の効率化と教育活動の質の改善に努めているか	2.1				
「健康と安全」を守り、育てる取り組み	体力づくり	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めているか	2.2	2.1	・体育部を中心として、様々な情報発信をして日々の指導に役立てられている。・運動場が広く、子どもたちが休み時間に活発に運動できている。教師も一緒になって活動していることが多い。スポーツランニングやなわとび大会で子どもたちの盛り上がりを見ていると、運動に対する関心や意欲は感じられる。・委員会活動でもいろいろな委員会が計画を立てて、普段運動しない子も参加できるいい機会になった。	・各家庭へ「睡眠」「朝食の中身の充実」などの発信をお願いしたい。子どもたちの運動意欲は、授業、休み時間、放課後、スポーツ少年団、クラブチーム等の様々な場面、機会を利用することで高まる。さらに生活意欲が高まる工夫を全校あげて取り組んで欲しい。	家庭での運動課題を設定し、家庭と連携して体力向上や健康増進に取り組んでいく。・さらに「ホム-ワツク」や委員会活動での取り組みをすすめていく。
		体力づくりを推進する運動の重点目標を定め、実践しているか	2				
		体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成に努めているか	2.1				
	健康安全	自分で考え、判断し、行動できる力（自助力）をめざした防災教育の推進が図られているか	2.1	2.1	・起こりうる危険を予測し、早めに対応するようにしているが、ケガが多かった。また、大事を取っての病院搬送も多かった。・安全点検や環境衛生点検を計画的に実施し、問題点があればすぐに改善するように努めている。	・より実践的な地域と密着した防災教育が必要だと思う。・自己防衛が育成されていない。「生きる力強さ」が必要である。	・ケガについては、環境整備だけでなく、児童への「自分の身は自分で守る」意識付けが必要である。防災は里東学区で地域のまとまりという点では、一番必要なことだと考える。学校の防災教育と地域の自主防災組織との関わりについて考えていきたい。
		安全点検は、施設設備で「死角」や「危険箇所」を見つけているという意識をもって臨んでいるか	2.2				
		平素から学校全体で安全管理、安全教育、健康指導の充実、徹底が図られているか	2				
	生徒指導	問題行動の早期発見、日常的な予防指導に積極的に取り組んでいるか	2.3	2.1	・子どもの心をとらえたりコミュニケーションを密にすることに力を入れている。全校一斉のふれあい週間を設定するなど、子ども理解に心がけている。「報・連・相」を日常化し、生徒指導主任、いじめ担当、教育相談担当を中心に、問題の早期発見と組織的対応を行っている。	・教師一人ひとりの力量を高めることは当然であるが、生徒指導組織の充実と組織的な対応が重要である。・先生方はよく頑張っていたいて感謝している。まずは家庭が一番である。その上で先生方をお願いするという気持ちが大切である。	・児童の気になる言動が増えており、児童をより多くの目で見取っていく必要がある。今まで以上に教師間のつながりを強めていかなければならない。教育相談は受けたいと申し込まれる保護者も増えておりスクールカウンセラーの必要性を感じる。
		生徒指導・いじめ対策・教育相談体制の確立と組織的な推進に努めているか	2.1				
		家庭や外部機関と連携しながら、「6つの約束」の徹底を図っているか	1.8				
	「成長する地域づくりと共に」	保幼小中の連携	子どもの校種間交流や教員の出前授業等を実施できているか	2.2	2.1	・教師間の研修会は、仰天教研究部会を主にしている。ただ、各校で実施する研修会を同じ学区内の他校種に参加を呼びかけているが、多忙故なかなか参加できない現状がある。・子どもの校種間交流の機会としては、保幼小では5・5交流や一日入学、小中では体験入学の機会をとらえて実施できている。	・子どもの数が減っている今日では、特に「縦」「横」などの他校種間の交流はより必要である。特に我が学区内では欠かせない。・今年度は特に「学び合い」に関する研究授業で公開を多くしていただき、連携の窓口を開いてもらったと思う。
校種間の合同研修会を実施しているか			2.3				
校種間の授業公開やカリキュラム研究などを積極的に行っているか			1.8				
家庭・地域との連携		保護者の子育てに対する積極的な支援に努めているか	2.4	2.3	・特に保護者との連携は電話連絡や家庭訪問など、きめ細やかに行ってきた。・行事、学習参観の実施で月1回は学校に来る機会を設けてきた。・学校便り、学年通信、メール配信、他情報の発信を心がけた。ただHPは更新出来なかった。	・多岐にわたる希望、要望に応えることは大事ではあるが、学校本来の目的を第一にしてもらいたい。・教師の保護者や地域への思い入れをどれだけ高められるかが重要だと思う。	・ホームページの更新は努力していきたい。・学級通信に関しては学級差があり「もう少し出して欲しい」という保護者の声は真摯に受け取りたい。・里フェスタには多くの教師が関わった。さらに地域への行事への積極的な関わりも働きかけていきたい。
		保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施に努めているか	2.3				
		保護者や地域と連携を取りながら、安心・安全な学校作りをめざしているか	2.1				
学校満足度	幼児・児童生徒の学校満足度	2.2	2.2	・児童アンケート「学校は楽しい」91% ・保護者アンケート「満足している」94%	・先生方のご苦労に感謝している。	・一人でも、楽しくないと思う児童をつくらない学校にしなければと考える。	

※3公…公開、公平、公正 3現…直ちに現場、直ちに現地の児童、直ちに現地で対策